

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 氏名      | 藤谷 雄平                            |
| 学位の種類   | 博士（体育学）                          |
| 学位記番号   | 第 6 8 号                          |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 1 項該当                 |
| 学位授与年月日 | 令和 7 年 3 月 2 4 日                 |
| 学位論文題目  | コスタリカ共和国における日本式野球の普及・振興に関する研究    |
| 論文審査委員  | 主査 山田 理恵<br>副査 中本 浩揮<br>副査 川西 正志 |

## 論 文 概 要

野球はアメリカで発祥し、カリブ海諸国や日本などでそれぞれの文化に適応しながら発展してきた。日本では、規律や集団性を重視し、教育的な価値を持つスポーツとして定着した。このように変容した日本の野球は、日本式野球として、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」とする）が 1970 年より開発途上国において普及・振興活動を実施している。教育的な要素が開発途上国で評価されており、JICA のスポーツ分野における派遣人数が最も多い。また、「スポーツと開発」において指摘されるサッカー偏重や被援助国のニーズとの不適合という課題は、JICA による活動において克服されていると考えられる。

しかしながら、日本式野球の普及・振興活動に関する研究は、援助者側に焦点を当てたものが多く、被援助者である野球選手や指導者に着目した研究はあまりみられない。被援助者が日本式野球をどのように理解し、受容しているか、あるいは変容させているかの実態について明らかにすることは、開発途上国における日本式野球を通じた開発を考察する上で意義があると考えられる。

そこで、本研究では、「スポーツと開発」の観点から、日本式野球の普及・振興における受容の実態について明らかにするとともに、コスタリカで日本式野球を普及・振興する意義とコスタリカの野球文化の一側面について考察することを目的とした。具体的には、フィールドワークを通じて、コスタリカの野球に関連する基盤設備や組織体制の現状を明らかにした。また、体格・体力測定を行い、サントドミンゴ野球協会の選手の身体的、体力的特徴を示した。さらに、アンケート調査を実施し、選手の日本式野球の理解と受容、日本式野球の言葉の理解、指導者における日本式野球の普及・振興活動の理解と実践、評価の実態を分析した。これらの結果に基づき、コスタリカにおける日本式野球の普及・振興の意義と野球文化の特質を考察した。

コスタリカに野球が伝播したのは、1800 年代の後半とされ、プエルトリコ、キューバ共和国やアメリカの影響を受けて 1970 年代まで発展と衰退を繰り返してきた (Masís, 2006)。

1974 年から、日本の JICA による日本式野球の普及・振興活動が開始された(宮崎, 2016)。  
それ以降、日本の影響を受けながら、コスタリカの野球は発展してきた。野球に関連する  
基盤設備では、グラウンドの施設が充実していた一方、野球用具は国内での流通が不足し  
ていた。首都圏では、野球用具を所持している選手が多かったが、経済格差がみられる地  
方では、野球を所持している選手は少ないことが確認された。また、組織体制では、サン  
トドミンゴ野球協会の役員が中心に活動方針などを体系的に策定していたが、活動の実施  
は主に JICA 野球隊員に大きく依存している現状がみられた。

体格・体力測定の結果、サントドミンゴ野球協会の選手は、日本人と身長は同程度であ  
ったが、体重が重く、スピードや筋力なども低い傾向にあることが明らかになった。また、  
MLB 選手になることを目標としている選手も多く、体力要素や競技力を向上していくこと  
が課題であることが示された。

2018 年のアンケート調査の結果、選手は野球を行う上で「規律・秩序」を最も重視して  
おり、日本式野球が選手に受容されていることが示唆された。また、2024 年のアンケート  
調査においても、選手は「規律・秩序」を最も重視しており、「尊敬・挨拶」「チームワー  
ク」も重視していることが明らかになった。この結果から、日本式野球が選手に受容され、  
定着しつつあることが示唆された。

次に、日本式野球の普及・振興活動で用いられる「規律」「秩序」「練習や試合に取り組  
む姿勢」「尊敬」「チームのため」といった言葉について、選手は、自己管理や指導への従  
順、整理整頓、協力や敬意を重視し、個人よりチーム全体の目標を優先する意識を持って  
いることが明らかになった。一方で、「尊敬」や礼儀に対する意識はコスタリカ文化の根底  
にあり、独自の挨拶方法や伝統的な礼儀作法を通じて表現されている。そのため、選手は  
日本式野球の全てを受け入れるのではなく、コスタリカの文化的背景と融合した形で、新  
たな野球文化を形成していることが示唆された。

サントドミンゴ野球協会の指導者および役員を対象としたアンケート調査の結果、日本  
式野球は「規律と尊敬」「技術・基礎の向上」「チームワークと人間形成」「楽しむこと」を  
指導の中核に据えており、技術面のみならず精神面や人間形成にも注力していることが明  
らかとなった。指導者は、この指導方針が選手の技術力や精神面の成長に寄与していると  
評価しており、日本式野球の「規律」や「他者への敬意」がコスタリカ文化にも適応し、  
互換性が高いと認識していた。

以上のことから、日本式野球の普及・振興は、コスタリカのサントドミンゴ野球協会に  
おいて、単なる技術指導にとどまらず、選手の精神的成長や価値観の形成、さらに青少年  
育成においても重要な役割を果たしており、意義があるといえる。本研究の成果は、「スポ  
ーツと開発」に関する重要な知見を提供するとともに、日本式野球を通じた国際的なスポ  
ーツの普及・振興活動の意義を示すものである。

## 論文審査の要旨

本論文は、コスタリカ共和国において日本式野球がどのように受容されているのか、その実態を、同国の野球において中心的役割を果たしていると位置づけられるサントドミンゴ野球協会を事例として明らかにするとともに、コスタリカの野球の文化的特徴、開発途上国における日本式野球の普及・振興の意義と課題について考察したものである。具体的には、JICAによる日本式野球の普及活動が行われている同協会について、フィールドワーク、体格・体力測定、同協会の指導者や選手を対象としたアンケート調査、資料収集等を行い、ハード・ソフト両側面から、日本式野球受容の実態と意義、コスタリカの野球文化の一側面について考察されている。さらに、開発途上国に日本式野球を普及させるうえでの課題や方向性についても言及されている。

本論文の成果は、収集されたデータの資料的価値とともに、スポーツ分野における国際開発論研究に新知見をもたらすものと評価された。なお、序論とまとめの部分におけるより説得力ある叙述や重複箇所の加筆・修正、文章表現上の修正等が求められ、それらについて適宜加筆・修正がなされた。

以上のような審査過程を経て、本論文は博士（体育学）の学位論文として合格のレベルに達していると判断された。